

ハマフエフキの種苗生産

勝俣亜生・久保弘文・仲村伸次・福田将数

1. 方法

基本的な方法は昨年度と同様である。親魚は昨年度の小グループのみ21尾を用いた。ずっと陸上水槽で飼育していたものである。ワムシは、初めの2週間程度タイ国産のワムシを与え、それ以降はS型あるいはL型ワムシを与えた。タイ国産ワムシの強化はナンノクロロフシスを使い、その他のワムシの栄養強化には、ドコサユージェナ（ハリマ化成）を用いた。アルテミアの栄養強化はドコサ65E（ハリマ化成）で行った。共食いによる減耗を減らすため、配合飼料の投与量を多めにした。

2. 結果

4月12日に初めて産卵したが、昨年と比べ産卵量が少なく、4月から7月の合計で、産卵量が69%、浮上卵量では55%に留まった。原因は不明である。このため、卵の池

入れが思うようにいかず、生産に支障を来たしたため、天然魚（約4kg、26尾）を購入し次年度に備えた。

表1に種苗生産結果を示した。8回の生産を試み、そのうち2回は生残数が少なくなったため日令8及び29で飼育を中止した。昨年同様初期の歩留まりは比較的良かったが、配合飼料の投餌量を多くしたにも関わらず、30日以降の共食いによる減耗が大きく最終的な歩留まりは1.4~5.1%で昨年度と変わらなかった。この原因には投餌量の不足の他に成長のばらつきも考えられ、飼育初期のワムシの投餌量が足りなかったかもしれない。

8回次の生産（6月16, 17日産卵）で、日令28からの2日間て約40万尾が全滅した。全長は8mmであった。酸欠ではなく、細菌性とも思えず、原因は特定できなかった。

表1 平成7年度ハマフエフキ種苗生産結果

生産回次	回	1	2	3	4	5
卵收容日	月日	4月16, 17日	4月26日	4月27, 28日	5月20, 21日	5月27日
卵收容数	千粒	2,938	1,716	1,768	2,340	2,548
ふ化日	月日	4月17, 18日	4月27日	4月28, 29日	5月21, 22日	5月28日
ふ化率	%	80	90	90	90	90
開始時水槽	m ³ , 槽	45, 1	45, 1	45, 1	45, 1	45, 1
仔魚收容数	千尾	2,350	1,544	1,591	2,106	2,293
開始密度	千尾/m ³	52	34	35	46	51
飼育日数	日間	8	48	54	55	54
取揚全長範囲	mm			14.9~28.4	17.6~37.2	15.3~32.5
取揚平均全長	mm	尾数減少のため	20	20.9	26.5	24.1
取揚尾数	千尾		32	81.5	75	64
生残率（ふ化から）%		中止	2.1	5.1	3.6	2.8
分槽時全長	mm					
使用水槽総数	m ³ , 槽			45, 2		
取揚密度	千尾/m ³		0.7	0.9	1.7	1.4
飼育水温	℃	23.6~25.2	22.0~26.9	22.7~28.8	21.9~28.2	23.3~28.5

表1 平成7年度ハマフエフキ種苗生産結果 つづき

生産回次	回	6	7	8	合計
卵収容日	月日	6月2~4日	6月15日	6月16.17日	4/16~6/18
卵収容数	千粒	3.484	2.470	2.678	19.942
ふ化日	月日	6月3~5日	6月16日	6月17.18日	4/17~6/19
ふ化率	%	90	90	90	88.5
開始時水槽	m ³ , 槽	45.1	45.1	45.1	45.7
仔魚収容数	千尾	3.135	2.223	2.410	17.652
開始密度	千尾/m ³	70	49	54	56
飼育日数	日間	53	42~50	29	8~55
取揚全長範囲	mm		15.6~35.4		15.6~37.2
取揚平均全長	mm	25	23.3	2日間で	23.5
取揚尾数	千尾	43	83	40万尾が	378.5
生残率(ふ化から)%		1.4	3.7	全滅	2.1
分槽時全長	mm				
使用水槽総数	m ³ , 槽		45.3		
取揚密度	千尾/m ³	1.0	0.6		0.9
飼育水温	℃	24.3~29.3	24.9~29.4	24.9~28.4	21.9~29.4